



東村山稲門会ニュース 第188号

平成24年11月10日発行
発行責任者：小亀 輝雄
編集者：中村 眞弓
042-391-0581

URL <http://members3.jcom.home.ne.jp/toumonkai/>

会からのお知らせ

10月のニュースでお知らせしましたが

11月24日(土)第17回定時総会に是非ご参加ください。

まだ出欠の葉書を出していない方は至急投函ください。

なお、総会の懇親会にはご家族のご参加も歓迎いたします。(会費 5,000 円)

○ 平成24年12月 定例役員会

日時 平成24年12月8日(土) 14:00～16:30
場所 ふるさと歴史館研修室

○ 第80回 雑学講座 (映画会)

日時 平成24年12月15日(土) 15:00～17:30
場所 サンプルネ 2F コンベンション ホール

映画題目 「ビルマの豎琴」 原作：竹山道雄 監督：市川崑 主演：安井昌二

昨年の「二十四の瞳」に続き、雑学講座80回の節目を迎え、「ビルマの豎琴」を取上げます。1956年(昭和31年)の制作で、全編に叙情豊かなメロディの流れる中、戦争の残酷な舞台で、帰国を諦め、戦場に放置された日本兵の屍を供養する水島上等兵。胸を打つ感動的な作品です。

(福田昇七 TEL 391-9726)

○ 退会

中村皓一さん (一身上の都合)
山村真理子さん (転居のため)

☆ 他稲門会関係

小金井稲門会総会	11月10日(土)	小金井商工会館	高鷲幹事出席
三多摩支部大会	11月18日(日)	京王プラザホテル多摩	
小亀・當間・岡田・福田・高鷲・土橋 参加予定			

☆ 守屋幸一郎会員 東久留米で講演

当会会員守屋幸一郎さんが、10月8日(月)東久留米稲門会(成美会館)で「私の早稲田と早稲田スポーツ～大隈重信と岩崎弥太郎」という演題で講演を行い大変好評でした。講演終了後「旨いものを食べる会」が行われ、歴代会長の差し入れのお酒や会員の奥様方の素晴らしい料理が並べられました。またクイズなども行われ大変盛り上がった楽しい会でした。(小亀・高橋(正)・大内・守屋参加)

☆ 上 幸雄会員主宰の「日本トイレ研究所」国土交通大臣賞受賞

当会会員上幸雄さんが主宰する、「日本トイレ研究所」が東日本大震災以降の「災害時トイレ問題と下水道対応に向けての諸活動」が評価され国土交通大臣賞を受賞しました。

急 告

早一明ラグビーが12月2日(日)に行われます。「早稲田スポーツを応援する会」で応援に行きたいと思しますので、希望者は下記まで連絡ください。

大内一男 090-4836-5886

10月21日(日) 盛大に稲門祭行われる

岡田一郎さん 福田晃さん 大内一男さんが ホテル宿泊券をゲット
車は次点で惜しくも逃す

快晴に恵まれた10月21日10時30分から記念会堂でホームカミングデーが卒業後15年・25年・35年・45年・50年目の多くの校友の参加のもとで行われた。鎌田総長から本日早稲田大学は創立130年目を迎えたが、今後も世界の大学として飛躍していくため、頑張っていきたいとの力強い挨拶のあと、校友を代表して映画監督の小栗康平氏(1968・文)が挨拶し、東日本大震災に際し被災後すぐに大学からお見舞いと励ましのお手紙を頂き感動した。そして学生時代の思い出を語りながら20歳の時亡くなった父に親孝行も出来なかったし、入学式にも卒業式にも出なかったが、今日このような場を与えられ、父に対して今日は私の入学式・卒業式を見せられたような気がしますという趣旨のお話があった。

午後からは稲門祭が行われ、キャンパスは大勢の校友たちで賑わいました。大隈庭園のサロン・ド三多摩には三多摩各市の稲門会長等多くの方が集まり、懇親の輪が広がりました。

午後三時から福引抽選会が行われ、東村山稲門会からは、岡田一郎さんに「日光金谷ホテルのペア宿泊券」福田晃さんに「ホテルイースト21東京スイートルームペア宿泊券」が大内一男さんに「小田急山のホテルペア宿泊券」が当たりました。またA賞のベンツに南湖さんが次点で当選しましたが(当選者が3時45分までに申し出がない場合に当選となる)残念ながら当選者が現れ東村山稲門会3台目の車獲得はなりませんでした。また来年期待しましょう。



「雑感」

大森 平八郎 (S40商)

来春、古稀を迎えるが、“書”の面でボランティアの活動を始めて約10年となる。デイサービスでの有志の方との習字教室、小学校での書写授業のアシスト並びにファンクラブと称する小学校土曜講座で書写教室を開いている。デイサービスのそれは、毎週木曜日の午前に行う。本人の意志で参加されているので、15名前後全員が真剣に書き込む。食堂を利用するため僅か一時間と限りある為、全てを添削するだけで一杯である。間もなく10年を迎えるが、先日、施設の担当の方から“書”は他の時間と雰囲気の違い、皆が心から楽しんでいるようにみえると言われたのが嬉しい。ご年配の方達は、総じて字が美しい。昔は小学校から丁寧に字を書くよう書き順を含めシッカリ教育されたからであろう。最近ではパソコン・ワープロが普及し手書きを必要としなくなったためか、若い方で達筆と感じ入ることが極めて少ないのが残念である。ただ、私自身も苦勞しておりやむを得ないと承知しているが、週一回の教室の為、添削時指摘した癖はなかなか翌週でも直らず同じ指摘をする事が多い。さりながら毎月課題の清書は各々に個性があり、気の入った立派な出来上がりである。

縁あって、小学校の授業を手伝うことが出来た。3年生から6年生迄の毛筆の書写である。生徒には筆を持たせ、手を添えて朱墨で添削する。3・4年生は担任の教師の指示に従い、全員が添削に素直に応じるが、上学年になるに連れて“書写”に興味がないとばかり添削を受けずに清書を提出する生徒が増える。クラスにより異なり、担任教師次第でバラ付く。

少し横道に逸れるが、幼稚園児、低学年生等は先生の教えをよく聞き従うのに、高学年・中学・高校生になる程守らなくなる。例えば、乗り物でも“お年寄りに席を譲る”との教えも、小さい頃は素直だが高学年になると、降車の人も待たずに老人等の優待席に駆け足で座る高学年生を見掛ける。これは余りに個人の自由・権利が教えられ、(大人達の責任も大きい)義務も同時に必要であるという教えが軽んじられてきた結果ではなかろうか。もう一つ権利・義務に通ずるが、“日本国民”という意識が希薄に過ぎないか。これも昭和史が授業で余りにも教えられていない結果ではなかろうか。領土問題にしても他国(中・韓)に比し、関心が薄いことは明白である。

元に戻り、本人が希望し参加するファンクラブ(土曜講座)は年15回前後開かれるが、毎回“永”字と学校の教科書を利用して教えている。毎年10～15人位が参加するが、特に筆遣いを教えるように努めている。個人差があるが、俗に“筋がよい”手が稀にいる。今迄全体で百人近くの子等をお教えたが、2・3人そのような手がいたが、卒業時に、素質があるので、一時止めても何時か再び書道を始めるように助言して送り出すことにしている。私が属する書道会は若い人が極めて少ない。小学校でも1クラス(約30人)で字を習っている生徒は、低学年でも一割程度である。日本の文化としての書道を若い人に受け継いでもらうために、身体が動く間は子供等と接していきたい。

第79回雑学講座報告

平成24年10月6日
ふるさと歴史館 視聴覚室

「子育てするなら東村山」の実現をめざして

講師 東村山市子ども家庭部長 小林 俊治氏
(会員 S53社会卒)

講師で会員でもある小林氏は、昭和50年に中野区沼袋から東村山市に転入、1年間民間会社に勤務の後、昭和54年に東村山市役所に入所されました。今回の講演のきっかけは、24年8月4日発行のニュース第185号に同じテーマでエッセーを寄稿いただき、更に詳しいお話を聞きたいとの声を受け実現したものです。

まず、東村山市の子どもを取り巻く現状と課題について話されました。少子化は東村山市でも顕著に現れており、0歳から18歳までの人口はこの20年間で3,556人減少、同時期総人口が18,345人増加したのと好対照です。

現政府の、「税と社会保障の一体改革」で言う「子ども子育て新システム」では、「子どもを社会全体で支えていこう」が目指す目標ですが、これはまず親がその責務を果たし、不足する部分を公的機関がカバーすることです。近年では、住民の権利の主張のみが目立ち、行政や地域でいろいろな方策を打ち出してもそれから外れ、孤立化してそれが結果として虐待の増加につながっている現状が当市にもあります。数十年前にはいた「お節介おじさん、お婆さん」の姿を最近あまり見かけないのは、残念なことでもあります。

東村山市では第4次総合計画で、次世代育成支援行動計画(レインボープラン)を策定し、7つの基本計画を定めて具体的な行動に移しています。平成24年7月1日現在では、認可保育所が20、認証保育所が6と拡充し、定期利用保育も3施設、又児童クラブ(小学1～3年生対象)も25ヶ所を数えるまでになりました。待機児は平成24年4月1日現在で195名おりますが、この80%が0～2歳、これをどう解消するか(ちなみに5歳児では待機児ゼロ)、現在具体策を検討中です。放課後子ども教室は、現在4つの小学校で実施、恩多小はそのモデル校に指定されています。「地域の子どもは地域で育てる」という目標を実現する一助として、各校では「土曜講座」も定着してきました。

最後にご自身の子育て経験を話されました。小林氏は26歳を頭に下が大学生の3人の子持ち。現在3世代で生活しており、子育てを高齢化社会と無関係にしていけない、世代間の交流を家庭内で実践するのはとても大切なこととの持論を述べられました。又、ご子息の保育園入園時に当時の園長から聞かされた言葉、「あなた方は親ではない。しっかり成長させたら初めて親になれる」が今でも鮮明に頭に残り、これを目標に子育てを実践したとのことでした。

地域との交流では、自分の得意分野である「サッカー」のコーチを10年間続け、その教え子が社会教育課長時代に責任者として取り組んだ「成人式」を、平穩に乗り切るバックアップとなってくれたとのエピソードも話されました。

東村山市は利便性と自然がマッチした環境を有しております。高齢化の流れは止まりませんが、「若い子育て世代に充実サービスを提供する」という自信あふれた小林氏の力強い言葉で、講演会は終了しました。

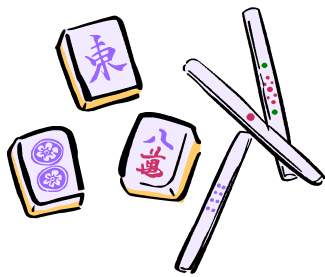
(當間昭治 記)

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

麻雀同好会

世話人 小野 智 TEL 391-9523
松永 常 尚 332-5621



第58回大会を去る9月23日（日）麻雀サロン「園」にて参加者12名（3卓）にて開催しました。

優勝者は当稲門会会長小亀氏でした。1位との大差（34）を最後の4回戦で全身全霊（？）の猛突進で見事に逆転して、7回目の優勝の栄冠を手中に収めました。第1回大会（H9. 8. 31）以来、優勝回数7回は小野氏に次ぐ2人目の快挙でした。準優勝は久しぶりにつきが戻ってきつつある松永でした。

当日の参加者は赤荻、小野、風間、佐野、塩田（初参加）、田口、土橋、當間、中川、三宅の各氏。大会終了後は「丸藤」にての懇親会（希望者のみ8名）で、酒、ビールを飲みながら、今後の当会の運営についての議論、意見が各氏よりありました。

尚、去る8月に開催しました三者合同懇親麻雀会（東村山、国分寺、小平）につき、年3回の開催。出席人数8名（各チームより）の提案（国分寺より）があった事を伝達しました。

次回は12月23日（日）忘年会を兼ねた大会を予定しています。

（松永記）

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



10月の例会は10月6日に開催。秋めいた気候となり、皆さん元気に歌いまくり楽しい一夜でした。常連の井垣氏、井手氏、高鷲氏、高橋（正）氏、滝川（桜）氏、南湖氏、内藤の7名が参加。賑やかな会でした。今年も後2ヶ月余り、12月には優勝大会を開催します。元気に参加されんことを希望いたします。

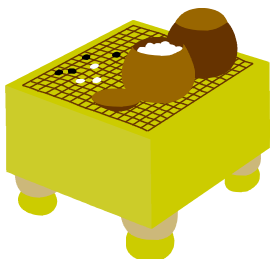
〈今後の予定〉

11月10日（土）カラオケランド ズー 19時10より

12月 8日 同上

囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 394-0593
高鷲 近 394-2336



●「第25回東村山稲門会囲碁大会」が、10月20日（土）、市民センター別館第3会議室で開催されました。好天に恵まれ、12名が参加して、A、Bの二つのグループに分かれて熱戦が繰り広げられました。

その結果、Aグループは、久しぶりの参加となった田代四段が、5戦全勝とぶっちぎりの優勝となりました。

Bグループは大混戦で、江藤初段と田島6級が同率首位。慣例により年齢上位の江藤さんが優勝と決定しました。進境著しい田島さんは次回より5級に昇級します。

＜参加者／敬称略＞

Aグループ … 福田晃・堀田・高鷲・田代・野村・丸本

Bグループ … 八木・江藤・塩田・中川・田島・杉山

○次回の「例会」は、12月15日（土）を予定しています。まだ予約ができていませんので、詳細につきましては、次号の『ニュース』でご案内します。

ウォーキングの会

世話人 高橋正夫 TEL 309-3407
阿部 茂 332-0298

第33回 ウォーキング 「皇居周辺一周」



前回、雨天のため、中止したコースを再企画しました。
コース内容は186号（9月ニュース）でご案内したとおりです。今回は好天を期待したいと思います。

日時：11月25日（日）

集合場所と時間：午前9時、東村山駅高田馬場方面行きホーム中程
→地下鉄九段下駅よりウォーキング開始

解散は九段下駅12時半ごろを予定しておりますので、付近の店で自由昼食にしたいと思います。

万が一、雨天の場合は中止とします。

パソコン同好会

世話人 小菅 宏 TEL 391-0219
福田昇七 391-9726



8月から始まった「ワード基礎」勉強会が10月20日に終了しました。「野鳥観察会のご案内」というA4サイズのチラシを作成出来るようになりました。無事終了したのを祝って、野田直さん宅をお借りし19名参加して盛大に懇親会を開催しました。次のコースへは殆どの方が進まれます。

Aクラスはインターネットの活用基礎、ワードの復習、メールの基礎を行います（6回）。Bクラスは「ワード応用勉強会」（6回）を開催します。内容は表の作成、図形と描画、テキストボックス、ワードアート（絵文字）等です。11月は稲門会の行事等と重なるため、お休みにします。

12月から12/8（土）AM10:00~12:00をスタートに第2土曜日はAMに、

第4土曜日はPM1:00~3:00に、2月23日（土）迄行います。

●追加募集：Aクラスは文字入力・マウス操作が出来る方2,3名を限度に追加募集します。Bクラスはワードの基礎は出来る方を1,2名追加募集します。参加費用は6回で6,000円です。

参加申し込み方法：氏名（フリガナ）、住所、電話番号、希望するコース、ワードのバージョン（2007か2010）を明記の上、小菅宛FAX（電話と同じ番号）、往復ハガキまたは電話でお申し込みください。先着順とさせていただきます。

当面の日程は、同好会等 短期予定表でご確認ください。

俳句同好会（稲酔会）

世話人 井垣和太 TEL 04-2924-2934



第64回「稲酔会」俳句会は、10月27日（土）午後2時から「丸藤」で開催しました。

参加者は、稲雀、麦穂、和夫、瑞雄、輝雄、哲哉、慎、北窓、波雲。

投句参加は、三郎、糸行、竜湖の3名で、計12名60句という盛況。

嬉しい悲鳴をあげながら兼題「稲」ならびに当季雑詠の力作を、互選、合評して真剣かつ楽しい充実の3時間半を過ごしました。

各参加者7句ずつの互選の結果、最高点句には

宅配便故郷の稲穂きとの入れてあり 麦 穂

が選ばれました。

句会の後の、全員が参加しての会食もいつものながらの盛り上がりを見せ、次回第65回句会の12月22日（土）に元気で集うことを約して、お開きとなりました。

第65回の兼題は「年」です。年末、忘年会、年の市、行く年、年惜しむ、・・・。

（稲雀 記）

テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



テニス同好会では、10月8日（祝）～9日（火）に青梅市の「おくたま路」において昨年に続く2回目の合宿を行いました。参加者はほぼ全員の13名。晴天に恵まれて2日間、講習やダブルスの試合に汗を流しました。

また、夜の宴会では楽しく歌ったりして大いに懇親を深めました。
参加者（敬称略）市川（彰） 同夫人 江藤 小菅 高橋（一） 滝来（京） 田島
当間 戸田 野田（直） 同夫人 野村（茂） 福田（昇）

2012年テニス同好会秋合宿（10.8～9）を終えて

野田 直（H7商）

当会の念願であったテニス合宿も、昨年の初開催につづき、この秋で二度目をむかえた。

昨年秋、まだ正式な稲門会会員でなかった私は、仕事の都合もあり日帰りでの参加。このためメンバー全員と深く交わることができず心残りだった。

今年は、開催の日程が決まるやいなや、仕事の調整をつけ、妻も勤め先に休暇を申し出、ともに一泊二日の合宿に参加することができた。

開催地である宿「おくたま路」は、青梅駅を過ぎ越しおよそ五キロを行った山あいにある。東村山からバイクを一時間ほど走らせ、国道から枝道へ折れるとあつという間、多摩川の源流に沿って建ち、深い緑にかこまれた宿に到着した。

近場の利を生かし、今年は午前からプレイをする。昼食までの一時間、私と、会のエース野村氏の二人でテニス講習会を開くこととなった。

A・B二面のコートに分けあい、それぞれコーチングにあたる。野村氏はボレーを中心に指導をし、皆は、普段練習する機会の少ないボレーショットを存分に打っていた。私は、二日間の長丁場にそなえ、ゆっくりとしたストレッチ体操や、ストローク&ロブのドリルを行った。

昼食をはさみ、午後からは江藤氏と滝来氏に進行のバトンを手渡すと、後はひたすら実戦のみ。一人あたり八（九?）ゲームをこなし、心地良い疲れと充実感をもって初日の日程を終えた。

二日目は、前夜の酒宴の疲れをものともせず三時間をプレイ。二日で計七時間のハードワークだったが、一人の脱落者も出さずに乗り切れたことを素晴らしく思う。

一方ちょっとした懸念もあった。今回、石塚氏が肩を傷め、欠場されたことは残念だったし、故障混じりの参加者も少なくなかった。健康への不安をひっそり表明される方もおられ、その点は心が痛んだ。

かくいう私も右の膝にトラブルを抱えている。テニス現役時代にこしらえた傷だ。生活に障りはないが、バランスを欠いたプレイをすると痛みが顔をのぞかせる。そのため、運動のコンディショニングには普段から気を使っている。

私は、生来体の線が細く、幼い頃はたえず病みがちだった。野外活動やスポーツを取り入れ、なんとか健康を保ってきた。中学時代に自転車旅行を始め、九州、四国を一周し、同時期にテニスを始めてからは、それなりの強さを獲得できたように感じていた。

しかし、三十代の半ば、膝を故障しテニスを中断する。仕事の多忙もかさなり、運動すべてから遠ざかると、半年で体調を崩した。健康のバランスが乱れれば精神もどこか澁刺としない。そんな状態を断ち切りたく、スポーツコンディショニング、ストレッチングなどの健康法、東西の医学から食養生に至るまで、ひたすら自学した。

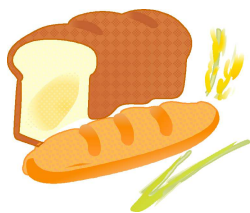
今回、メンバーと取り組んだ「スローストレッチ」は、その頃に学んだもので、積極的に運動状態を作るというよりは、関節や筋肉の状態をつぶさに感じとる、身体の状態に耳を傾ける術と言える。

テニスは爽快なスポーツであるが、ポイント奪取の報酬性から、つい身体を酷使してしまう。激しい運動で保つ健康はどこか危うい。私は、テニス同好会のメンバーのみならず、稲門会の諸先輩や、日々運動をする人のすべてに、心身をリセットし、ふり返る時間を持ってもらいたいと願っている。

身体の状態に気を払う。少しでも違和感があれば無理をせず、プレイの方を自分のサイズに合わせたい。それは、「最高を目指さない」ということではない。身体をいたわりプレイをすることで、誰よりも長く、コートに立ちつづけて欲しい。

毎年来る春は、常に桜満開ではないかもしれない。しかし、「存分にやりきった、卒業できる」と心に決めるその日まで、私は皆さんとともに、そこに居たいと思っている。

年に一度と言わず、合宿とまではいかずとももっと気軽な、春の花見に出かけるような、テニスの旅を図りませんか? 「おくたまの路」につづく、新たな体験を探しにゆきましょう。



パンと青春

早大学生厚生会の思い出

山下 進 (S29文)

戦後間もない昭和24年から29年まで、早稲田のなかに「早大学生厚生会」なるアルバイト集団があった。これは、当時の生活貧困学生たちが、「授業の合間に学内でアルバイト収入が得られる」方法を、みずから考えて作り出した集団だった。この厚生会の活動について紹介したい。

まず、米軍の爆撃で廃墟同然の状態にあった現在の2号館地下の一部屋を無断で占拠して「部室」とした。そこを拠点に、当時の食料管理法で合法的には手に入らなかった小麦粉を、占領軍と関係のあるパン屋から供給してもらい、自分たちでパンを焼き、それを学内各校舎入口で売ったのだ。

その売り手が学生アルバイトで、2時間売り場に立つと60円の報酬がもらえた。当時、学生食堂の納豆定食が10円だったから、結構いい収入といえる。しかも2時間というのは授業の1単元の時間だから、自分の授業の空いている時間に働けば講義を欠席することもないわけだ。

食糧難の時代で、パンは飛ぶように売れた。アルバイト希望者が殺到し、最盛期には会員数が320人にも達した。やがてパンは業者から仕入れる形にし、製造からは手を引いたが、売り場ではパンのほかに牛乳や大学新聞や早稲田学報なども販売したから、かなりの売り上げがあった。

大学当局は厚生会が非公認団体であり部屋を不法に占拠していることを理由に退去・解散を要求してきた。学生たちは「貧しさゆえに勉学への道を閉ざされてたまるか!」と抵抗し、単なるアルバイト集団から学園の商業主義化・反動化に対抗する民主的思想的集団へと成長していった。教授の中にもこの運動に理解を示してくれる方が何人もおり、文学部のある教授が会長を引き受けてくれ、大学側とのあつれきは収まった。

パン売りのほか厚生会はいろいろな事業に取り組んだ。夏・冬等の休暇の期間を利用して鎌倉海岸に海の家を開いたり、夜の数寄屋橋で露店を出したり、放課後時間を利用して大学周辺の家々を回り鉄屑やビンの廃品回収をしたこともある。しかし一番大きな“儲け”の機会は春季の入学試験の時期で、その中心が入試問題の模範解答速報である。入試の監督員にアルバイト学生を忍び込ませ、その学生が試験時間中にトイレへ行く振りをして問題用紙を一枚外に持ち出す。待っていた連絡員が受け取って解答者集団が待っている秘密の基地へ運び、受験生が試験会場から出てくるところには立派な模範解答集が出来上がっていてそれを一枚10円で売る。飛ぶように売れた。また周辺の喫茶店からコーヒーの出ガラをもらってきて薬缶でグツグツ煮ると結構色と香が出る。これを一杯10円で売る。パンとセットでよく売れた。入試が終ると可否連絡電報の代行（当時は電話は発達していなかった）。新入学生には角帽の販売（昔はほぼ全学生が角帽をかぶった）。等々である。

会員たちは当時の社会ルールや常識に外れたことをするにも大胆だったが、何より明るくまじめだった。部室ではよくロシア民謡のコラスが響き、会員たちは議論好きだった。テーマは、ケインズ経済学とマルクス経済学の優劣、実存主義の限界、戒能通孝教授（法学部）の革新性、全学連の日和見主義、共産党主流派・国際派の評価、新着アメリカ映画「シェーン」の感動場面、避妊器具の上手な使い方等々、多岐にわたった。議論だけでなく学内外で開かれる各種の集会やデモにもよく参加した。また、あるとき学生の一人が授業料未納で退学通告を受けたと言ってきたのを聞き、みんなのカンパでその一部を助けたこともあった。

熱い青春を送ってきた厚生会だが、世の中の食糧事情が良くなってくるにつれてパンの売り上げも落ち、また学生共済会が学内で物品販売を始めることになって、厚生会の活動とダブる部分が多くなった。49年に学校側のあっせんもあり両者は統合して「早大学生厚生会」は終わった。

山下進さんの終戦直後の学生生活をさらに詳細にお書きになった「確かに そこには 青春があった」A4・8ページを希望者の方に来月のニュースと一緒に送りますので、希望なされる方はご連絡ください。(394-6951 小亀輝雄)

同好会等 短期予定表										
同好会・行事	11月					12月				
	日	曜	時間	場所	備考	日	曜	時間	場所	備考
ウォーキングの会	25	日	9:00	東村山駅上りホーム		—	—	—	—	
テニス同好会	4	日	11:00～13:00	久米川コート4		9	日	13:00～15:00	久米川コート4	
	18	日	9:00～11:00	運動公園A	予備日	19	水	13:00～15:00	久米川コート4	予備日
囲碁同好会	—	—	—	—		15	土	12:30～	市民センター別館	
カラオケ同好会	10	土	19:10～	カラオケランドズー		8	土	19:10～	カラオケランドズー	
園芸の会	8	木	14:30～16:30	スポーツセンター		—	—	—	—	
麻雀同好会	—	—	—	—		23	日	13:00～	サロン園	
音楽同好会	—	—	—	—		—	—	—	—	
俳句同好会	—	—	—	—		22	土	14:00～	「丸藤」2階	
ゴルフ同好会	7	水	7:15	久邇カントリークラブ	校友会	—	—	—	—	
早稲田スポーツ応援の会	23	祝	13:00	秩父宮ラグビー場	早慶戦	2	日	13:00	国立競技場	ラグビー
パソコン同好会	—	—	—	—		8	土	10:00～12:00	シルバー人材センター	勉強会
	—	—	—	—		22	土	13:00～15:00	シルバー人材センター	勉強会
	—	—	—	—		22	土	15:00～16:00	シルバー人材センター	相談会
雑学講座	—	—	—	—		15	土	15:00～17:30	サンパルネ	映画会
— : 対象月に開催予定無し * : ニュース編集時点で未定。詳細は世話人にお問合せ下さい。										

編集局だより



○東京駅丸の内駅舎が創建時の姿に復元されて10月1日に開業しました。どのようなになったのか興味もあり、連休で遊びに来ていた姉を見送りがてら見に行ってきた。駅舎を見物するのはひょっとしたら東京駅が始めてかもしれません。重要文化財でもあるので別に不思議でもないでしょうが。赤れんがの外観や天井の装飾などコンクリートの高層ビル群の中にあって独特の雰囲気です。地方出身者にとってターミナル駅には格別の思いがあるような気がします。最近は帰省には品川駅を利用して東京駅にはあまり行かなくなりましたが、たまにはきれいになった東京駅経路もよいかもしれません。

○次号の原稿締め切りは11月23日（金）です。よろしくお願いいたします。（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

俳壇

子校庭の願のバケツに実る稲穂かな
日の光溜めて熟せりやう受胎とぞ
望月や末の娘やうやう里の柿
稲雀穂のシーソーに群れ遊ぶ
冬瓜や女房の味に馴らされて
賽銭の音のくぐもる神の留守
稲雀群れて豊作告げにけり
減反に抗ひし稲実りけり
北の稲熟る地平や空知川
秋の鮎竿の撓ひの肅然と
落穂にも垂るる実りの重みかな
誤正 船賃は貯めてあるなり秋彼岸
身にしみて石仏の頬さすりたる
稲熟る藁家につづく棚田かな
おしろいが咲いて路地裏にぎやかに
邯鄲を一夜限りと籠に入れ
千把据え稲扱く土間の夜話温し
好天の烏うるさき風邪枕
刈り終えし稲のほいは陽のほい
掘り起こす土の濃淡秋うらら
道元忌素足のままの修行僧
秋深し結いの心の白川郷
背を丸め犬抱く人や秋の暮
稲門祭いよよ盛りて天高し
堂守の積んで上海蟹の籠
厨房に積んで上海蟹の籠

菊田 一平
幸田 瑞雄
輝 雄
小 亀
小 永井 哲哉
高 部 糸行
内 藤 慎
丸 本 北窓
八 木 竜湖
山 下 波雲
栗 島 三郎
井 垣 稻雀
出 田 麦穂
和 夫